

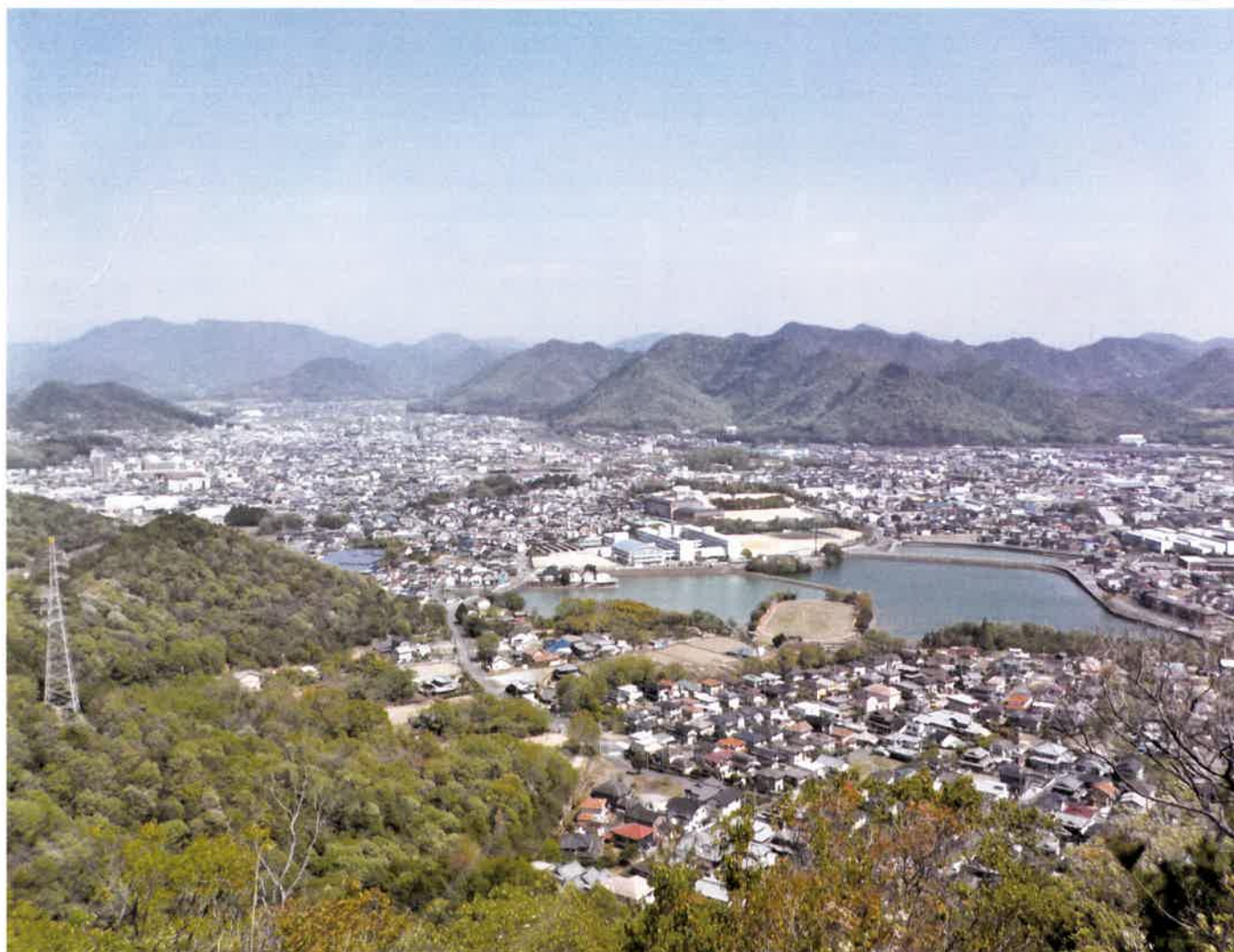
広 報 の む ら

第 122 号

2026年10月

令和8年

発行人 区長 元井 孝
編 集 広 報 委 員 会
事務局 TEL・FAX0795-23-4639
世帯数 2,979世帯
人 口 7,069名
(9月1日現在)



緑遊・ノムラの森から見た 野村町

緑風台からのコースが整備されています。野村町や西脇市内が一望できます。





高齢者などが、公民館に集まり、交流や、仲間づくりの場として「いきいきサロン」を年3回開催しています。

今回は、多可町出身の「本山一座」のみなさんの公演をいただき、大いに楽しみました。

参加者3名の方に 感想をお聞きしました

小学校2年生の子供と一緒に、初めて参加させていただきました。

馴染みのある内容を交えながらだったので、楽しみながら地域の昔の話を学べました。

子供は長時間見れるかと心配していましたが、内容を理解できたかわからないけど、笑いながら最後まで観ていました。

小学校高学年の子供にも観せてあげたいなと思いました。

親にお芝居の話をすると感心して聞いてくれ「四国のお遍路さんなんかも、今でも見かけたら施してあげるとな」と教えてくれました。

介護予防体操も楽しくできました。子供の姿勢が悪いので、家に帰ってから子供と遊び感覚で体操しました。キャッキャッ言いながら体操してくれました。

しばざくら通り 夏祭り

7月22日(水)



夏最大のイベント、夏祭りが西脇市卸売り市場駐車場にてしばざくら商店会主催で行われ約3,000名町民の方々が楽しみました。

10月には野村町全住民が参加して行われる秋祭りが待っています。

皆で盛りあげていきましょう。

野村町敬老会

9月20日(日)

西脇ロイヤルホテル

約126名の参加をいただき、歌って踊って！？
楽しいひとときを過ごしていただきました。



参加者に感想をお聞きしました



2区1区の友人女性
アトラクションの企画が良かったです。

4区
食事が美味しかったです。

3区の女性
少女の踊りに刺激されました。目が点
になり楽しかったです。

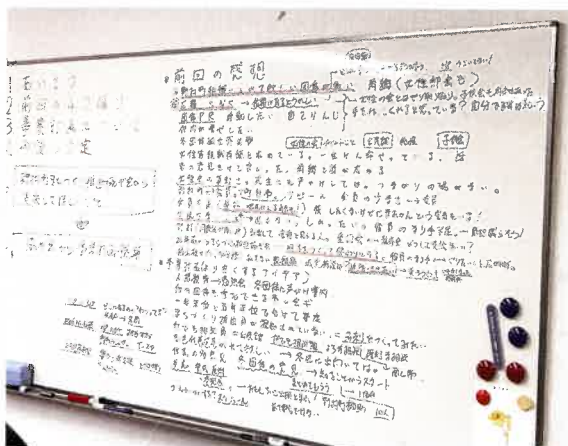
5区
アトラクションが良かったです。

敬老会は、「長寿のお祝い」と「高齢者の社会参加・生きがい促進」の一助となることを目的に開催しています。長年にわたり社会に貢献されてきた高齢者の功績を称え、その長寿を祝福するとともに、高齢者自身や地域の人々が互いに感謝や敬意を深める機会となることを目指しています。高齢者同士の交流や、楽しみながら心身の活動を促すことにつながるよう計画しています。

野村町では、「参加するのが楽しくなるまち 野村」を目指して、様々な活動を計画しています。みなさんもぜひご参加ください。

野村町は毎年、100歳と90歳を迎えられたみなさんに「長寿お祝い」を実施しています。今年度は 100歳1名 90歳30名の方々を訪問し、お祝い記念品を手渡しています

まちづくり推進協議会の取り組み (ワークショップ開催)



2月10日 みらいえ



6月10日 野村町公民館

令和7年12月に野村町各種団体と懇談会を実施し、各団体の深刻な課題が提起されました。この課題を解決し、持続可能な仕組みづくりを行うための話し合いの場としてワークショップを開催しています。

野村町は、当初、重春地区に所在する八町のうちの一つの町でした。当時から秋祭りや町民運動会など、自治会や住民同士の交流を深める行事が盛んに行われ、地域コミュニティの活性化を図ってきました。

昭和四十三年に、野村町の人口増加により、重春地区から独立、野村地区として事業を継続し、昭和五十四年に区制をしいて現在に至っています。

この間には、平成十二年にまちづくり推進協議会が設立され、平成二十二年に第一次まちづくり計画、令和二年には、第二次まちづくり計画を策定し、地域課題の解決と魅力のある地域づくりに取り組んでまいりました。

ところが、近年、移住入居者を含めた人口の増加による人間関係の希薄化、少子高齢化や地域活動を担う人材の不足など、地域を取り巻く環境は大きく変化しています。

伝統ある地域の祭りや行事を続けていくことが難しく、これからは地域コミュニティがどんどん薄れていくと考えられます。

また、地域課題が多様化、複雑化し、各種団体の存続自体が危ぶまれるまでになりつつあります。

このため、昨年度より各団体とのワークショップによる話し合いを行い、課題を共有し、解決のため、自治会の枠を超え、地域活動を支える各種団体との連携や、世代、性別、立場を超えて話し合い、住民、行政と連携し、協働し、それぞれの知恵と力を持ち寄り、地域全体でまちづくりに取り組むしくみづくりが求められています。

野村町各区人権教育推進員市外研修報告

～兵庫県で最初の飛行場をご存じでしょうか～

会長 池上秀平

やけに広い県道になっている加古川（尾上）飛行場跡をとおり、新旧推進員や町内会長町役員他小中学生を含め28人の町民をのせたバスの一行は7月4日、市立尾上公民館を訪れた。常設展示コーナーには、95式1型戦闘機の下に加古川河口東の5本の滑走路が三角形を描く。その飛行場は語る。「私は見ていました。多くの若者たちの命が飛行機もろとも散りゆく運命だったことを。私は考えていました。そのわかものを大切に思う人々の気持ちを。」

ここで戦闘機に250kg爆弾の懸架装置をとりつ

けて菊池経由で知覧へ。木村浩一館長による解説の折々に、加古川飛行場の歴史を掘り起こし綿密に調査されてきた昭和13年生まれの上谷昭夫さんの、人としてとても大切な深い想いのこもった語り。

奇跡的に残されていた戦争末期の13歳の軍国少年の日記について、 発見者である

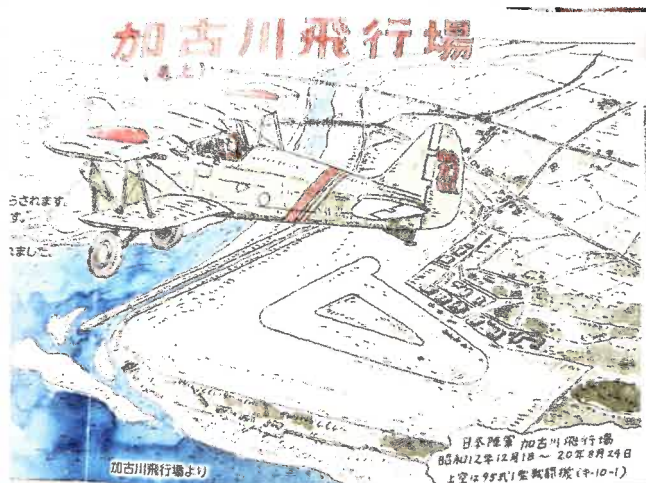
木村さんが解説してくださった。それは戦病療養中の父宛てに綴った戦時の小学生森本隆君の日記と家庭新聞の、リアルな戦時の庶民生活と、父に配慮した情勢報告。お二人から2時間で語りつくせない講話をいただいた。昼食では、戦時の子どもの描く食糧事情の話の余韻から、食べ物をすぐにはとる気になれない参加者もおられた。

滴る緑の雨の鶴林寺伽藍の宝物殿では、 住職の

ご厚意で、加古川寺家町の中村家旅館で家族と出会った後、決死の旅に立つ若者の、現代からはとても想像できない思いが込められた手紙や遺品を観覧できた。

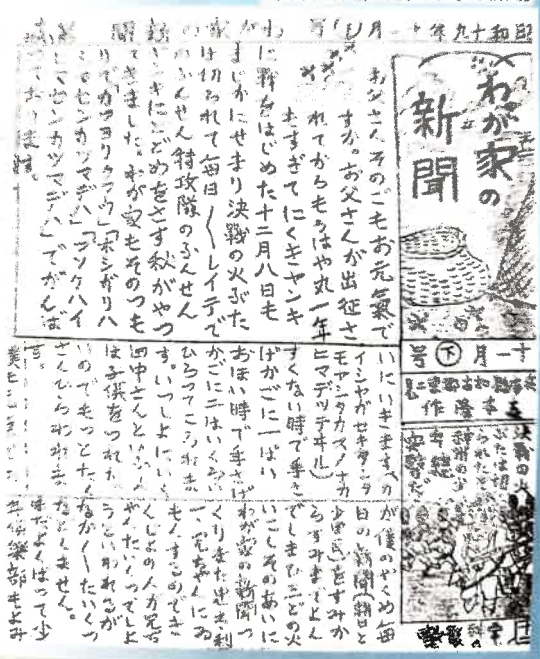
一人ひとりの人権が意識もされず 主張もできなかった戦前戦時の世相からは想像できないほどの人権を享受しているわたしたちが、人権の大切さをいま語らねばならないことを改めてかみしめることのできた研修でした。

ものが言える今こそ、世代をまたいで歴史を引き継げるよう、尾上公民館の常設展示のご家族での観覧をぜひおすすめします。池上記



子どもたちの目にうつる戦争

森本隆君が書いた「わが家の新聞」



各区で始まっているまちづくり区別学習会に、どこでもご自由にご参加ください

令和8年度 野村町行事予定

野村町行事

10月10日(土)～11日(日) 野村町秋祭り
 12月 6日(日) 祇園祭
 12月31日(木)～1月1日(金)
 年末年始祭灯 7・1区担当
 1月 9日(土) 互礼会
 2月 7日(日) 初午祭

クリーン作戦

3月 7日(日) 春のクリーン作戦
 2月28日で案内をしておりましたが、
 クリーンセンターの受け入れの都合により
 変更しています。

公民館行事

10月10日(土)～11日(日) 野村町秋祭り
 10月31日(土)
 ～11月 1日(日) 野村町文化祭
 12月13日(日) 公民館大掃除

野村公園清掃

11月22日(日) 1区担当
 3月 7日(日) 2区担当

子供会育成会

10月10日(土) 秋祭り「神輿清めの儀」
 10月11日(日) 秋祭り「子ども神輿」
 練り・ビンゴ大会
 12月 6日(日) 資源回収
 1月10日(日) とんど

その他

ふれあい・いきいきサロン
 みらフェス出店
 花いっぱい運動
 自主防災訓練
 健康教室
 河川敷草刈り 野焼き 等環境整備
 広報のむら発行
 危険地点、水路の点検 整備
 土地・建物の確認作業

熊本地震義援金

熊本での地震災害について、連日報道されています。野村町公民館に、義援金を募る募金箱を設置しました。被災地の方々に、少しでも協力できることをねがっています。
 義援金は赤十字社を通じて現地に送りました。ひきつづき募金箱を置いています。
 皆様の協力をお願いします。



まちづくり推進協議会の「花のボランティア」活動中です。西脇市駅前、野村公園、平野口交差点の花壇が主な活動場所です。メンバーも引き続き募集しています。

申し込み方法 0795-23-4639野村町公民館へFaxでお知らせください。
 担当より連絡いたします。 環境担当 岸本

出産祝い品の贈呈について

野村町では、子育て支援の一環として、お子様が生まれたときにお祝い品を贈呈しています。

対象者

出産されたお子様の保護者でありかつ、野村町（久留山谷を除く）に住所を有している方。

申請方法

下に示す通り、「西脇市はびくサポートセンター」からの出産祝い金の贈呈時に、「野村町出産祝い品申請書」をお渡しします。必要事項を記入の上、提出してください。申請書は市から野村町に届けられます。

ぜひ、この制度をご利用ください。

申請書に記入された個人情報については、この業務の範囲内でのみ取り扱いします。



新生児誕生

【西脇市】

お祝い金贈呈

「新生児誕生祝い品申請書」記入、提出依頼

申請書の回収・野村町へ提出

【野村町】

名簿・受領書作成

申請書にて住所を調べ贈呈

【町内会長】

受領書提出

【野村町】

保管



公民館には「広報のむら」が保存されています。第一号は一九八三年（昭和五十八年）九月となっています。野村地域の歴史を知る貴重な資料が掲載されています。

第二号に掲載されていた「野村の渡し船」（大前生様）の記事を紹介します。



むかしは街道筋の川には、ほとんど橋がなく、往来の人々は人足の肩車や渡し船で渡っておりました。

領内に加古川の流れを挟んで兩岸に、耕地や人家、あるいは山林のあります（ママ）野村では、毎日の肥草刈りや、薪取りの作業にも川を渡らなくてはなりませんので、村で渡し船を造って往来に利用しました。

渡し賃はいくらであったのかの記録が見つかっておりませんのでわかりませんが、次の文書は二百八十年前に庄屋さんが書き残した覚書の一節です。

当村渡し船新船作り覚書
明和三年（一七六六）三月買
一、銀貳百三拾目 多井田
九郎右衛門ニ而買
杉板代
但、徳畑宮大杉、七尺五六寸
廻り之木ニ而引立、長五間、
赤味斗リニ而打立候積り、
板の義へ、当村下着ニ而着候
買切申候。

一、銀 舟きぎ四貫目 高砂ニ而
一、銀 船大工作料、但六月十四日分

この覚書は、加東郡滝野町多井田の材木屋九郎右衛門から、多可郡中町徳畑の天満宮境内の杉の古木を買って木挽きにかけ、新しい船を造った時の記録です。



元気カフェ はらぺこあおむし

毎週金曜日、(八月と正月はお休み)

13:00 から 14:30

どなたでも参加いただくことができます。



「はらぺこあおむし」代表の井上さんにお聞きしました。

「元気カフェ はらぺこあおむし」は約3年前から活動を始め、開催回数は100回を超えています。毎回10〜20名の方に来ていただいています。

みなさんでお茶を飲んだあと、おひめ体操をして、そのあとはクイズや歌など、さまざまなレクリエーションを楽しんでいただいています。お近くの方が来られることが多いのですが、お孫さんや、お友だちを誘って来られる方もあって、皆さん和気あいあいと過ごしていただいています。

女性の会の役員を終えたときに、「何かできないかな」と、市の福祉協議会に相談したところ、「元気応援カフェ」を勧めていただきました。西脇市内では約10か所の「元気応援カフェ」があるそうです。「元気カフェ はらぺこあおむし」は、現在、野村町の女性の会の役員OGを中心に7人で運営しています。

お近くの方にお立ちいただくことが多いのですが、多くの方にも知っていただいて、お越しいただきたいです。

編集後記

広報委員 絹川 和彦

「広報のむら」は、平成29年3月発行の第87号以降は、西脇市のHP上に掲載されており、PDFファイルで見ることができます。創刊号からの「広報のむら」は、野村町公民館に保存されています。

第一号は昭和58年3月に発行されており、体裁は変化しながらも受け継がれてきました。

野村地域の歴史にまつわる記事が多く掲載されており、たいへん貴重な資料だと感じます。少しずつ紹介させていただきます。

野村町まちづくりワークショップでは、「広報のむら」について多くのご意見をいただきました。各種の団体から「会員募集、行事案内を載せてほしい」との声がありました。喜んで掲載しますのでぜひお知らせください。原稿にまとめていただいてもよいですし、取材の形式でも承ります。取材した内容はこちらで記事にまとめます。

今年の秋も野村町の行事が多く行われます。どうぞよろしく願います。